

令和4年度
大分川・大野川学識者懇談会

大分川総合水系環境整備事業
計画段階評価(案)

令和4年8月2日

国土交通省 九州地方整備局 大分河川国道事務所

大分川環境整備【計画段階評価】

1. 流域及び河川の概要

(1)流域の概要

大分川は、その源を大分県由布市湯布院町の由布岳（標高1,583m）に発し、由布院盆地を貫流し、阿蘇野川、芹川等を含め、中流の渓谷部を流下し、由布市挾間町において大分平野に入り、賀来川、七瀬川を含め、大分市豊海において別府湾に注いでいる。



凡例	
	鉄道
	高速道路
	国道
	市町村界
	大分川流域界
	ダム

上流部 (南由布橋～源流)

上流部は由布院盆地を緩やかに蛇行しながら貫流する。由布院温泉は、豊かな温泉湧出量を誇る温泉保養地として知名度を高めている。



由布院盆地

中流部 (篠原橋～南由布橋)

中流部は由布川軽石層を深く侵食した峡谷の形態を呈している。河川は急勾配で蛇行し瀬・淵が連続する。



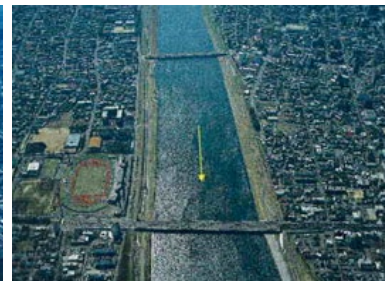
峡谷部

下流部 (河口部～篠原橋)

下流部に県都である大分市があり、流域内人口（約26万人）のうち約6割が大分市に集中している。海浜は大分川と大野川から運ばれた沖積物で遠浅となり、臨海工業の適地として埋立てられている。



河口付近



大分平野・市街部

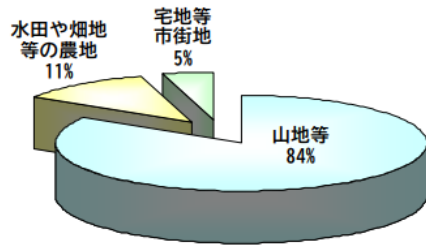
大分川環境整備【計画段階評価】

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 650km²
 幹川流路延長 : 55km
 流域内人口 : 約26万人
 想定氾濫区域面積 : 約51km²
 想定氾濫区域内人口 : 約18万人
 主な市町村 :
 大分市、由布市、別府市、竹田市 等

土地利用

流域の約8割以上を山地等が占める



産業

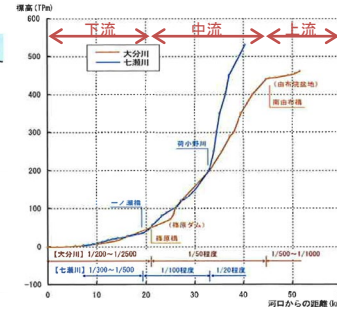
県都「大分市」は、昭和39年に新産業都市に指定され、社会、経済、文化の中核的役割を担っている。
 一方、大分川上流部は、阿蘇くじゅう国立公園、神角寺芹川自然公園等の公園緑地や歴史等の資源と有機的に結びついた由布院温泉、長湯温泉等が、流域内の観光の活性化を担っている。

地形

流域の形状は上流末広がり扇状をなし、下流沖積地の大部分を大分平野が占める。河床勾配は、下流部では約1/200～1/2,500と緩やかだが、中流部は峡谷形態をなし1/50程度の急勾配となり、上流部は由布院盆地となり約1/500～1/1,000と比較的緩くなっている。



大分川水系流域図



大分川河床縦断面図

自然環境

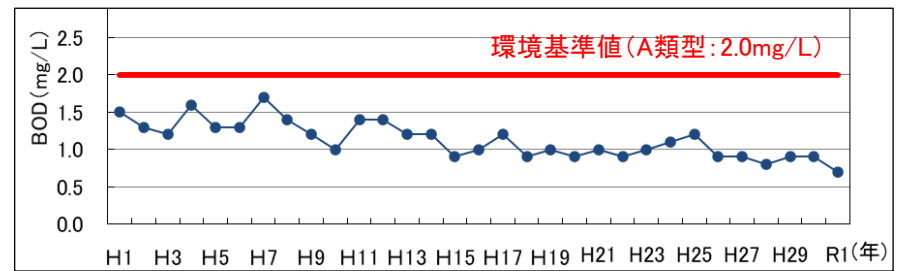
流域内には四季の溪流美や、水量豊かな湧水など恵まれた自然環境を有しており、流域の一部は由布岳と鶴見岳を含む阿蘇くじゅう国立公園や瀬戸内海国立公園、神角寺芹川県立自然公園に属している。



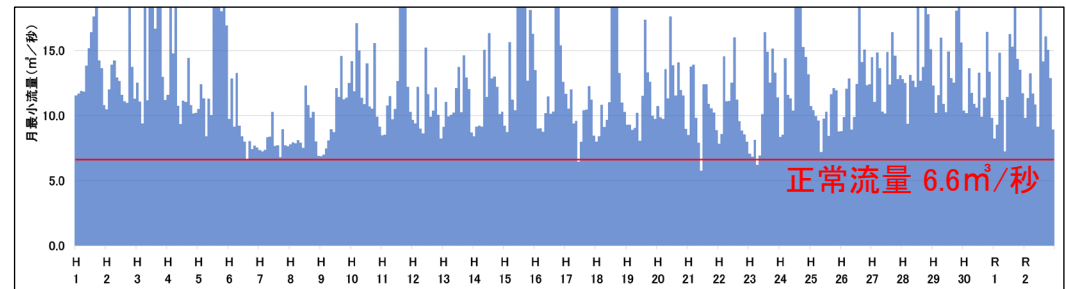
大分川と由布岳・鶴見岳

水質・流況

大分川水系の水質 (BOD) は、平成元年以降、いずれの地点も環境基準値を満足している。
 大分川水系の流況は、平成元年以降、府内大橋地点の正常流量を概ね満足している。



BOD75%値 経年変化 (府内大橋)



月最小流量 経年変化 (府内大橋)

大分川環境整備【計画段階評価】

(2)河川の概要(歴史・自然環境)

【歴史】

■古くから豊後の国の政治・文化の中心であり、歴史や文化を活かしたまちづくりとして、大友氏館跡庭園をはじめとした府内の中心建物の復元整備や案内サインの設置、関連イベントの開催等が行われている。

【自然環境】

■上流～中流区間ではアユ、ウグイ、ヨシノボリ類などの回遊性魚類が生息し、タコノアシなどの湿性植物やカヤネズミ、カワセミなどが生息している。

■舞鶴橋周辺の右岸側には大分川でほとんど見られなくなったヨシ原やシオクグ群落が形成され、オオヨシキリなど鳥類の繁殖場となっている。米良川合流部付近の右岸側には河畔林が連続し、多くの鳥類が生息する。

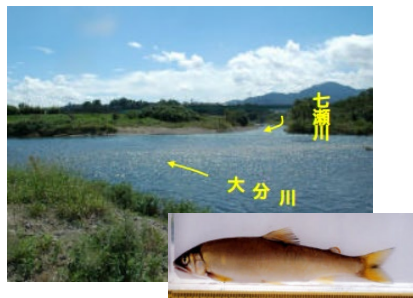
■府内床止より河口までの下流区間は感潮域となっており、河口付近にわずかに残る干潟にはクボハゼなどの魚類、ハクセンシオマネキなどの底生動物などの貴重な生物が確認されている。



大友氏館跡の復元整備イメージ



大友氏館跡庭園(令和2年完成)



アユの産卵場(七瀬川合流点付近)



干潟とヨシ原(下流部)



河畔林(下流部)



クボハゼ(上)とハクセンシオマネキ(下)

大分川環境整備【計画段階評価】

(3)河川の概要（利活用状況）

- ・大分川水系の河川空間利用者数は年間約76万人(国管理区間、平成31年度「河川水辺の国勢調査」推計値)。
- ・大分川下流域は、ウォーキングやサイクリング、高水敷や水面を利用したスポーツ、各種イベント等に利用され、都市部における市民の憩いの空間となっている。また、河川敷は、毎年開催されている「大分国際車いすマラソン」の練習場や大分市ウォーキング協会のイベント等にも利用されている。
- ・カヌー等水上スポーツによる水面利用が盛んであり、大分市カヌー協会等によるカヌー体験や大分市が毎年開催している「スポーツフェスタ」のカヌーセーリング会場、地元高校カヌー部の練習等に利用されている。
- ・大分県カヌー協会や市民活動団体、地域の学校等により、河川清掃活動や美化活動が行われている。

大分川中上流区間・賀来川



- 堤防上での散歩
- アユ釣り
- 水生生物調査
- ・高水敷は少ないため、堤防上での散歩や自転車などの利用者が多い。
- ・瀬淵ではアユ釣りの利用が多く見られる。
- ・環境学習の場ともなっている。

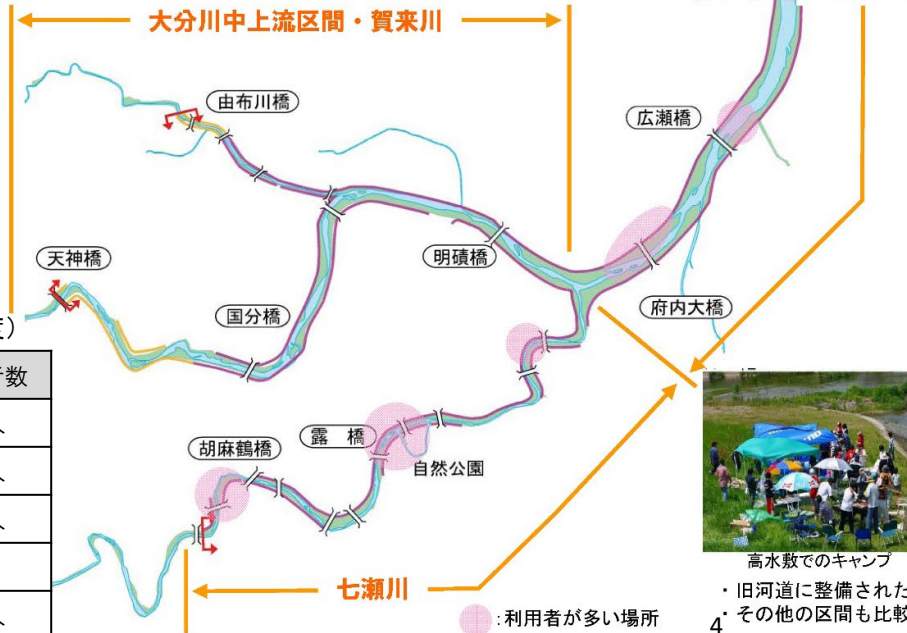
大分川下流区間



- ・整備された高水敷は野球やサイクリング、ラジオ体操などのスポーツに利用され、堤防上の散策利用も多い。
- ・広瀬橋付近の野鳥が集まる河畔林は野鳥観察の場となる。
- ・河口付近の水面は釣りのほかにカヌー等の練習場に利用され、大分七夕まつりの花火大会等のイベントが毎年開催される。



大分七夕まつりの花火大会



■ 推計年間利用者数 (H31年度)

河川名	年間利用者数
大分川下流区間	約43万人
大分川上中流区間	約19万人
七瀬川	約11万人
賀来川	約3万人
計	約76万人

支川七瀬川



- ・旧河道に整備された七瀬川自然公園を拠点として、キャンプや水遊びを楽しむ家族連れが多い。
- ・その他の区間も比較的水辺に近づくやういため釣りや水遊びが見られ、堤防の散策利用も多い。

大分川環境整備【計画段階評価】

(4)大分川水系における環境整備の取組予定

【水環境】 整備計画の策定(平成18年)以降、大分川水系の水質(BOD)はいずれの地点も環境基準値を満足しており、また流況としても正常流量を概ね満足しており、水環境の悪化は認められないため、引き続き状況について監視していく。

【自然再生】 河川改修等の際は、アユの産卵場や河畔林などの河川環境を保全・モニタリングするなど、自然環境の変遷をふまえ河川環境の評価を行う。

【水辺整備】 地域の賑わいづくりに資する水辺空間の整備に向けて、地域住民や地元行政機関と連携・調整しニーズ把握を行う。

大分市が推進するスポーツによるまちづくりや歴史的資源を活かした地域づくりに向け、同市が申請した「大分川下流域かわまちづくり計画」と連携し地域の賑わいづくりに資するよう、R5～R14年度の10年間の計画で、治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を行う。

整備メニュー	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
水環境	監視・モニタリング														
自然再生	河川改修等における河川環境の保全・モニタリング														
水辺整備	地域社会との連携・調整による地域ニーズの把握														
	大分川下流域かわまちづくり														
	水辺整備														

大分川環境整備【計画段階評価】

2. 課題の把握・原因の分析

【大分市が目指すまちづくり】

●スポーツによるまちづくり

- ・大分市総合計画(令和2年3月)では、広く市民が参加できる各種スポーツ事業の充実を図り、スポーツによるまちづくりを推進している。
- ・大分市総合計画の下位計画となる大分市スポーツ推進計画(令和2年3月)において、「健康寿命」の延伸に向け市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう下記のスポーツ振興施策を展開している。

①ライフステージ等に応じたスポーツの推進:大分市の運動人口割合が減少傾向にあり、全国平均に比べても低いことを受け、誰もが生涯にわたり日常的にスポーツを楽しめるよう、市民一人ひとりのレベルや志向、環境に見合ったスポーツ活動を推進する。

②スポーツをする場の整備・確保:すべての市民が使いやすく安全な施設等の整備を基本に、自然を活かしたレジャー・レクリエーション活動スペースの整備や身近な運動・レクリエーションエリアの整備・充実を図り、さらには運動やスポーツを通じた「地域づくり」の拠点を目指している。

③スポーツを通じた地域活性化と魅力発信:スポーツ資源を活かした地域の活性化と魅力発信、観光資源等他の分野の取組と組み合わせたスポーツツーリズムを推進する。

●河川空間の活用

- ・大分市都市計画マスタープラン(令和3年3月)では、心のいやしや健康づくりなど多様なレクリエーション需要に対応し、水とふれあい親しめるレクリエーション空間として河川敷を活用するとしており、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組が進められている。

【大分川下流区間の現状】

- ・大分川下流区間にはカヌー艇庫や親水護岸、グラウンド等が整備されており、カヌーや少年野球の練習の他、毎年イベント会場(スポーツフェスタ)として活用されている。河川敷はウォーキングやサイクリング等、地域住民の日常的なスポーツ空間となっており、水辺利用のニーズが高い。また、周辺には大友氏遺跡等、多数の歴史資源を生かした観光拠点形成が進められており、この取組と連携したスポーツツーリズム等の推進を目指している。
- ・大分市は、大分川下流域を対象としたかわまちづくりに取り組んでおり、地域の代表や学識者等から成る「かわまちづくり検討委員会」及び「推進部会」にて「大分川下流域かわまちづくり計画」を策定し、令和4年度のかわまちづくり支援制度への登録を目指している。この計画のなかで市は、大分川下流域にスポーツ拠点を創出するため、利用の受付や広場の維持管理のための管理室や倉庫、利用者のためのトイレや駐車場等の整備を予定している。

【大分川中上流区間の現状】

- ・大分川中上流区間では、大分市が目指すまちづくりに合致した水辺利用の計画が具体化されていない。

- ・以上を踏まえ、下流区間において水辺を活用したまちづくりの取組みが具体的に推進されていることから、大分川下流区間に焦点を当てて課題の把握・原因の分析を行う。

大分川環境整備【計画段階評価】

2. 課題の把握・原因の分析

地域の課題	原因
<ul style="list-style-type: none"> 大分市の運動人口割合が全国平均に比べ低く減少傾向にあることを受け、市はスポーツによるまちづくりとして広く市民にスポーツを行う機会を提供しているが、市街地周辺に身近に利用できる施設がなく、ウォーキングや野外活動等に利用できる身近なスポーツの場を求める市民意見が多い。 大分市は、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成や観光資源等他の分野と組み合わせたスポーツツーリズムの推進を目指し、大分川下流域かわまちづくりによる堤内外の賑わいづくりに取り組んでいるが、川裏(大友氏遺跡や多目的広場)と河川敷の動線が不十分で、河川空間の活用に支障がある。 大分川下流域は水辺利用のニーズが高く、水面利用の施設拡充を望む市民意見が多いが、利用者が使いやすく安全な施設等の整備が不十分である。 	<p>【陸上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由にスポーツを楽しめる場として河川空間が期待されるが、高水敷に不陸があり、土砂堆積や草木の繁茂が生じやすく、動線が不連続でスポーツ利用の利便性・安全性が低い。また、スポーツ利用の拠点機能として求められる休憩所やトイレ、駐車場等の施設が不十分である。 川裏の多目的広場と堤防の間に窪地がある他、川表と堤防をつなぐ階段等の動線が不足しており、堤内外の往来がしづらく一体的な利用展開が難しい。 <p>【水辺】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設階段の幅が狭く、カヌー等の運搬に支障がある。 既設親水護岸のステップが足りず、カヌーの安全な乗降ができない。 水際に連続する通路がなく、またカヌー練習等で往来する上流側に接岸できる親水施設がないため、安全な水辺利用に支障がある。



高水敷は土砂堆積や不陸があり雑草が生えやすく安全な利用が難しい



川裏と堤防の間に窪地があり相互の移動がしづらい



既存の観覧用階段は段差が大きく通行が困難管理用通路は未舗装で不陸が生じている



階段幅が狭く、カヌーを2人で並んで安全に運ぶことができない



低水護岸のステップが干潮時に干出しカヌーの安全な乗降ができない



親水施設が整備されておらず草木の繁茂で水際を通行できない



大分川下流域の主な屋外スポーツ施設及び観光資源

大分川環境整備【計画段階評価】

3. 政策目標、具体的な達成目標の設定

(1)政策目標

大分市の掲げるスポーツによるまちづくりの推進に寄与できるよう、大分市の進めるまちづくりと一体となり、大分川の下流域の新たなスポーツ拠点及び多様な利用が可能となる水と緑のオープンスペースとして人々が親しめる水辺拠点を創出する。


(2)具体的な達成目標

大分市スポーツ推進計画(令和2年3月)では、公共スポーツ施設の整備を通じて、市営有料スポーツ施設の利用者数を2018年の140万人から2024年には180万人に増加(約130%)することを目標としている。当該環境整備が大分市のスポーツ人口増加目標に寄与できるよう、これらと同程度の利用者伸び率(約130%)を目標とする。※
※現在の年間利用者数(推計)は、左岸ちびっ子広場で約2.1万人、左岸舞鶴橋下流河川敷で約7.2万人、合計約9.3万人(H31年度河川空間利用実態調査)であり、これが整備後に約30%増の約12.1万人となることを目指す。

(3)期待される効果

- ・縦断方向の動線改良やトイレ等の利便施設の拡充により、ウォーキングや野外活動等に利用できる安全で利便性の高い身近なスポーツ拠点の創出と市民の健康増進が期待できる。
- ・広大な高水敷の整正や川裏の大友氏遺跡や多目的広場との一体的な整備(川裏窪地の盛土によるグラウンド拡張、堤防川裏の緩傾斜化によるスポーツ観覧スペースやアクセス路の創出、川表堤防の階段整備による高水敷へのアクセス路の創出)により、水辺でのアウトドア体験や川裏の多目的広場と一体となったスポーツ大会などが可能となり、さらに周辺の観光資源と連携した「スポーツツーリズム」を展開しやすくなることで、堤内外の賑わい創出が期待できる。
- ・水面利用施設の拡充により、大分川下流域における水面利用スポーツ拠点の安全性と利便性が向上しさらなる水辺空間のにぎわい創出が期待できる。
- ・以上を通じ、大分市が目指すスポーツによるまちづくりの実現への寄与が期待できる。

■ 当該水辺整備とSDGsの関係

関連するSDGsのゴール	当該河川環境整備の取り組み	関連するSDGsのゴール	当該河川環境整備の取り組み
 3 すべての人に健康と福祉を	目標3 [保健] あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	 11 住み続けられるまちづくりを	目標11 [持続可能な都市] 包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
 4 質の高い教育をみんなに	目標4 [教育] すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	 17 パートナーシップで目標を達成しよう	目標17 [実施手段] 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化化する。

大分川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価

- ・水辺利用の機運が高い大分川下流区間での環境整備の検討にあたり、当該エリアの課題解消のための対策案として複数案を抽出し、比較した。
- ・複数案は、大分川下流域の新たなスポーツ拠点として既往施設との連携を考慮し、大分川の左岸と右岸を比較対象として抽出した。

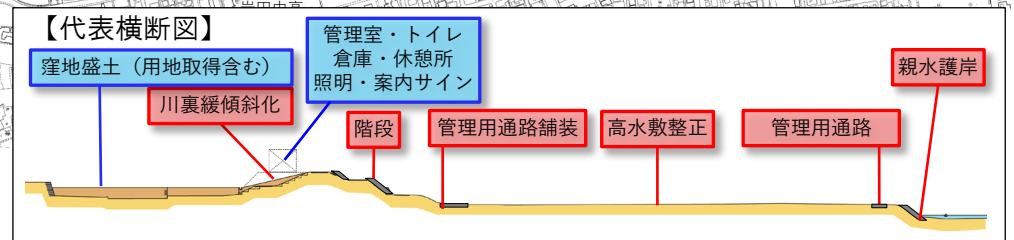
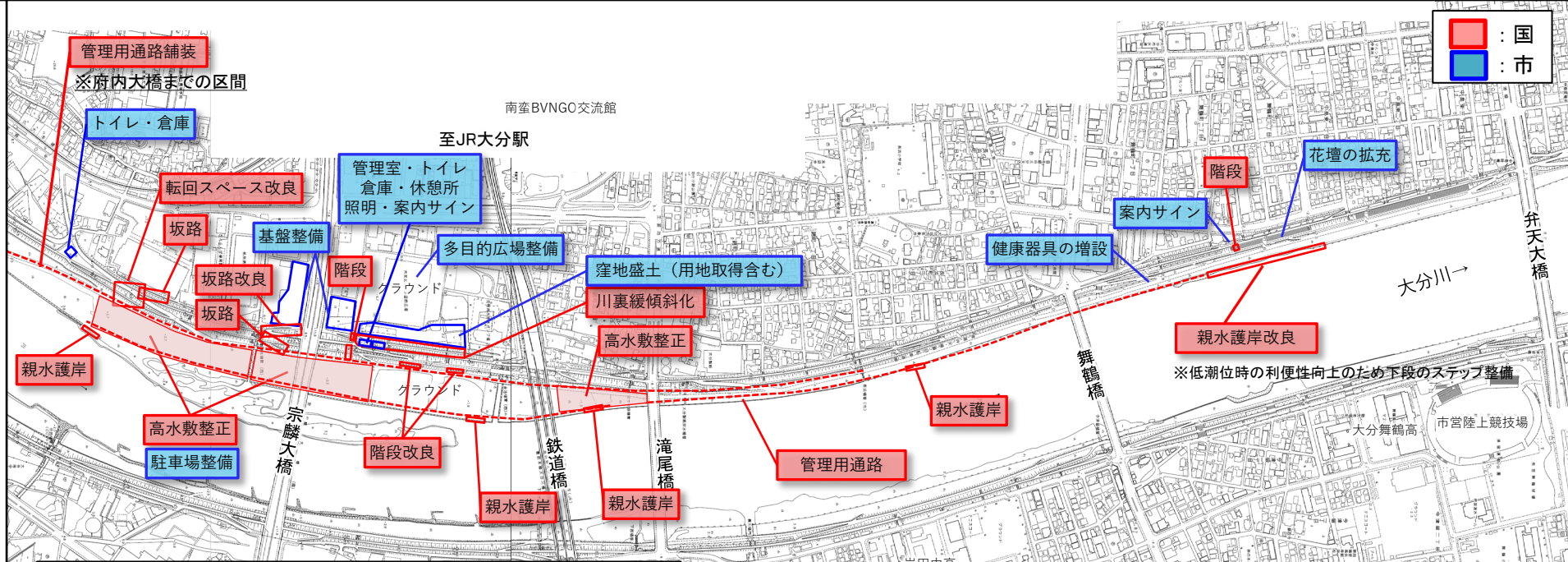
A案. 弁天大橋～府内大橋 左岸

【整備テーマ】大分川の歴史や自然を活かし、都市の中で水と緑に親しめる空間づくり

地区の概要

弁天大橋～舞鶴橋左岸は既にスポーツや健康づくりの拠点として利用されており、広い高水敷やグラウンドがある宗麟大橋左岸周辺と併せて拠点化することで、新たな賑わい創出が見込まれる。

整備の概要



大分川環境整備【計画段階評価】

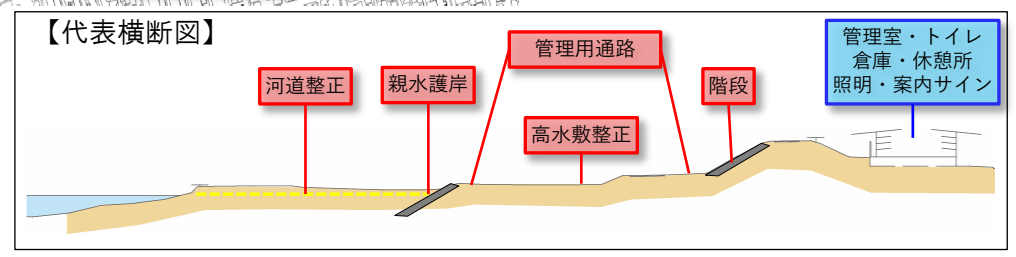
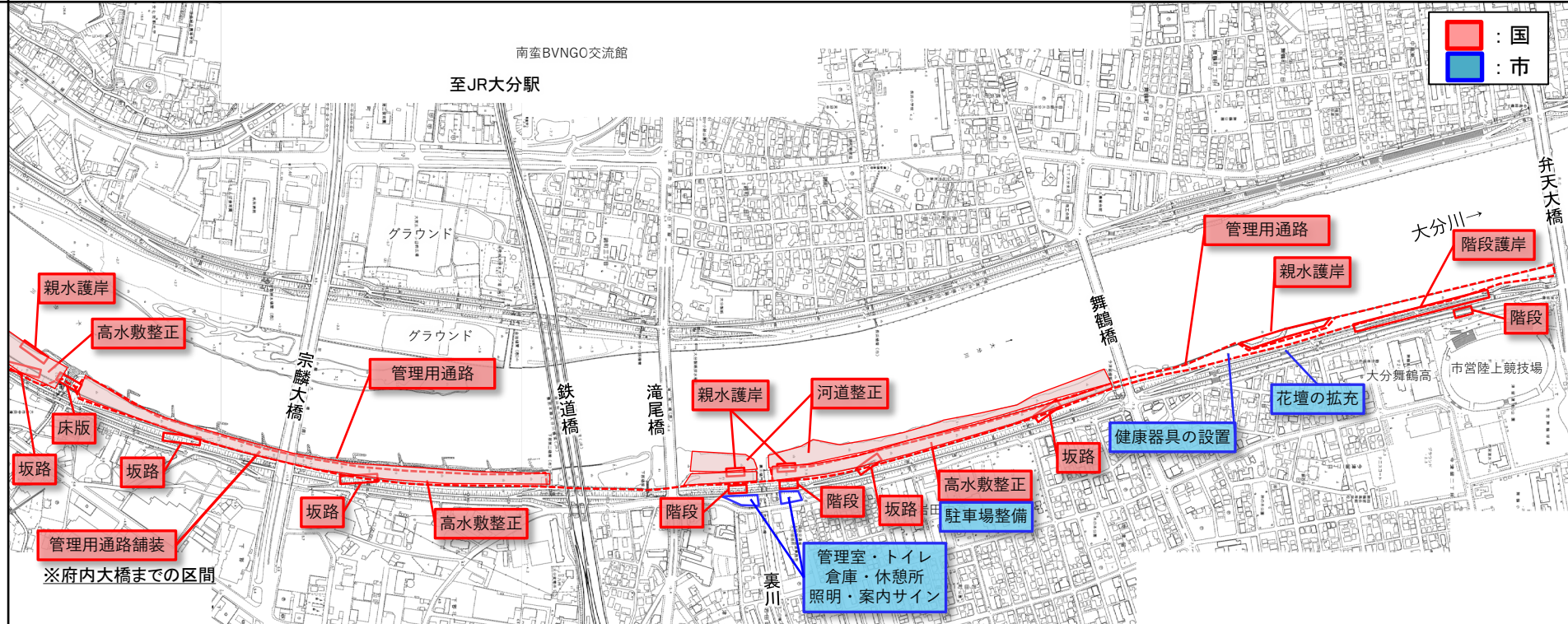
4. 複数案の提示、比較、評価

B案. 弁天大橋～府内大橋 右岸

【整備テーマ】大分川の歴史や自然を活かし、都市の中で水と緑に親しめる空間づくり

地区の概要 弁天大橋右岸にはスポーツ大会の拠点となっている陸上競技場があり、縦断方向の動線をつなぎ裏川分派箇所と併せて拠点化することで、新たな賑わい創出が見込まれる。

整備の概要



大分川環境整備【計画段階評価】

4. 複数案の提示、比較、評価

比較案		A案. 弁天大橋～府内大橋 左岸 (大分川1k200～6k600付近)	B案. 弁天大橋～府内大橋 右岸 (大分川1k200～6k600付近)		
対象地区の特性		<ul style="list-style-type: none"> 大分の中心市街地に近く、堤防や高水敷でウォーキングやサイクリングをする人が多い。 舞鶴橋下流にカヌー艇庫があり、ここを拠点にカヌー練習やイベント等で水面利用が多い。 広い高水敷にはグラウンドがあり野球等に利用される他、アウトドアイベント等のニーズがある。 国指定史跡大友氏遺跡に隣接しており、観光資源と一体的な利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 後背地には陸上競技場や高校、住宅等が広がり、高水敷でジョギングやサイクリングをする人が多い。 分派する裏川ではかわまちづくり（大分県）の取り組みが成され、地域の憩いの場の創出とともに、住民参画によるまちづくりの素地が醸成されている。 		
整備内容		高水敷整正、川裏緩傾斜化、親水護岸（改良含む）、階段（改良含む）、坂路（改良含む）、転回スペース改良、管理用通路、管理用通路舗装 駐車場、窪地盛土、管理室、トイレ、倉庫、休憩所、照明、案内サイン、多目的広場整備、基盤整備、花壇の拡充、健康器具の増設	高水敷整正、河道整正、親水護岸、階段、階段護岸、坂路、管理用通路、管理用通路舗装、床板 駐車場、管理室、トイレ、倉庫、休憩所、照明、案内サイン、花壇の拡充、健康器具の設置		
評価軸	実現性	<ul style="list-style-type: none"> 宗麟大橋周辺の「金池地区」では、大友氏遺跡整備に合わせ、歴史や景観等に配慮した水辺の拠点整備が河川整備計画で位置づけられている。 弁天大橋～舞鶴橋には既設の親水護岸があり、これを整備することで効率的・効果的に水面利用の安全性・利便性の向上を図ることができる。 ウォーキング等の日常利用が盛んであり、整備後の利活用のさらなる活発化が期待される。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 弁天大橋～舞鶴橋には既設の親水護岸があり、これを整備することで効率的・効果的に水面利用の安全性・利便性の向上を図ることができる。 高校が隣接し、部活動の練習（吹奏楽、ランニング等）での利活用が期待できる。 ウォーキング等の日常利用が盛んであり、整備後の利活用のさらなる活発化が期待される。 	○
	アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> 大分駅から約1.5kmと近く、駅からアクセスしやすい。 整備拠点は国指摘史跡大友氏遺跡に隣接し、観光資源と一体的な利用が図られる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 大分駅からは約1.8kmで大分川を渡る必要があり、A案に比べ駅からのアクセス性は劣る。 スポーツ大会やイベント会場となる市営陸上競技場に隣接し、一体的な利用が図られる。 	△
	観光機能	<ul style="list-style-type: none"> 大分七夕まつりでは河川敷に屋台が立ち並び、弁天大橋上流で行われる花火大会の観賞場所としても利用され、多くの観光客で賑わう。 大友氏遺跡周辺で進められている大友氏の歴史まちづくりと連携することで、観光客の河川空間への誘引、スポーツツーリズム等の新たな魅力創出が期待できる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 市営陸上競技場と連携することで、スポーツ大会やイベントによる観光客の河川空間への誘引、スポーツツーリズム等の新たな魅力創出が期待できる。 	○
	経済性（コスト）	<ul style="list-style-type: none"> 最も安価である。 完成までに要する費用 約15.4億円 維持管理に要する費用 約9.3億円（50年間） 	○	<ul style="list-style-type: none"> A案に比べコスト面で劣る。 完成までに要する費用 約17.0億円 維持管理に要する費用 約10.1億円（50年間） 	△
	維持管理の持続性	<ul style="list-style-type: none"> 舞鶴橋下流ではカヌー協会や地元高校の学生等による除草・清掃活動が定期的に行われており、花壇の手入れもボランティアにより継続されている。 広い高水敷があり、立地条件としても民間活力の導入ポテンシャルは高い。 適切な維持管理により持続可能。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 住民参画によるまちづくりの素地があり、ボランティア活動等も活発に行われている。 適切な維持管理により持続可能。 	○
	地域社会への影響	<ul style="list-style-type: none"> 大友氏遺跡と連携した一体的な整備により、周辺の観光資源と連携したスポーツツーリズムの推進等、地域のまちづくり構想の実現に貢献できる。 既存施設と連携した新たなスポーツ拠点ができることで水辺が賑わい、市民の健康増進、地域活性化が図られる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 市営陸上競技場と連携した一体的な整備により、スポーツ利用環境の充実に貢献できる。 既存施設と連携した新たなスポーツ拠点ができることで水辺が賑わい、市民の健康増進、地域活性化が図られる。 	○
	環境・景観への影響	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の水辺にはタケノコカワニナやハクセンシオマネキ等の重要種が生息する。 整備により一部の水際の改変を伴うが、水辺の自然環境に配慮した工法等の採用により影響は最小にできる。 ワンド等の親水機能向上により安全な環境学習の場が創出される。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 舞鶴橋周辺の右岸側には大分川でほとんど見られなくなったヨシ原やシオクグ群落が形成されオオヨシキリなどの繁殖場となっている他、米良川合流部付近の右岸側に連続する河畔林は多様な生物の生息場となっているなど、右岸には生物多様性の保全対象が広く分布することから、整備にあたりこれら保全対象の改変を伴うため、A案に比べ環境への影響低減で劣る。 	△
総合評価		○	△		

比較2案に対して、実現性、アクセス性、観光機能など7つの評価軸について評価を実施した。

・総合評価において、アクセス性、経済性が高く、環境・景観への影響を低減できることから、妥当と考えられる案は、A案。「弁天大橋～府内大橋左岸」と評価。

大分川環境整備【計画段階評価】

整備に向けた取り組みの概要

【ハード施策】

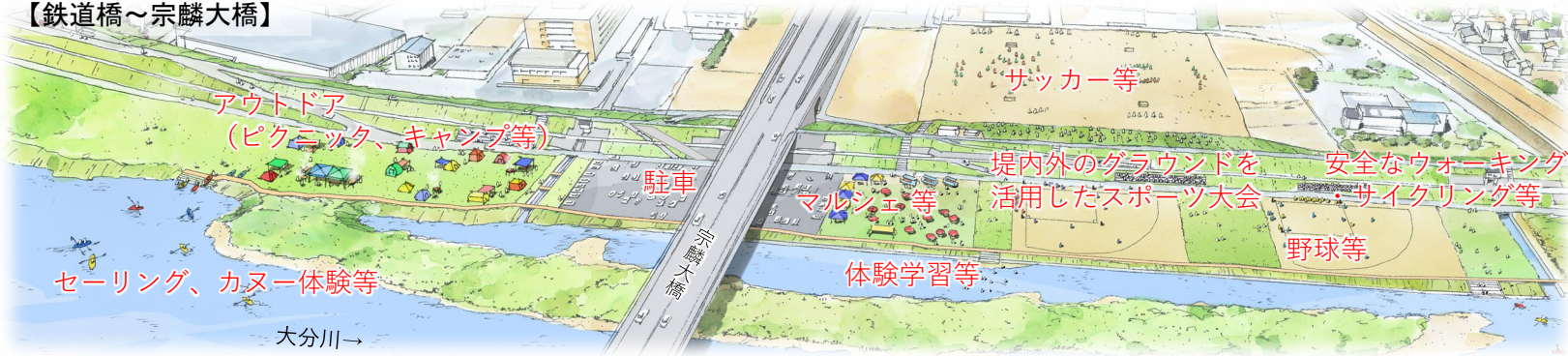
①大分川下流域の新たなスポーツ拠点として賑わいを創出

◆地域からの意見・情報

- ・既設護岸の改良や中継地の整備等、水上スポーツの利便性・安全性の向上
- ・ウォーキングやサイクリング、車いすマラソンの練習等の利便性と安全性の向上
- ・堤防のアクセスを改善し、川裏の多目的広場と河川空間を一体的に利用

・カヌーやグラウンド等スポーツ利用の既存施設をさらに利用しやすくし、利便性向上により上下流が連携した河川空間の更なる賑わいづくりを目指す。

【鉄道橋～宗麟大橋】



【舞鶴橋～鉄道橋】



②多様な利用で賑わう河川空間を創出

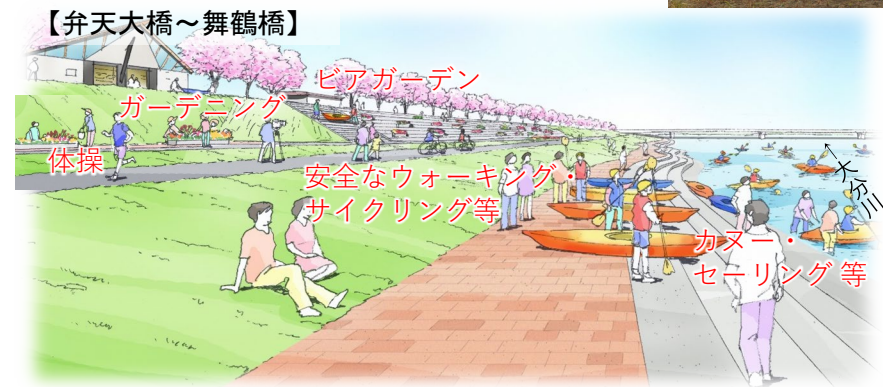
◆地域からの意見・情報

- ・マルシェやキャンプなど、観光客や地域住民の憩いの場としての高水敷利用
- ・イベント時の駐車場として開放

・広い高水敷を活かし、マルシェやキャンプ、屋外イベント等の多様な利用者で賑わう河川空間を目指す。



【弁天大橋～舞鶴橋】



【ソフト施策】

- ・河川管理者は、基盤整備、都市・地域再生等利用区域の指定等を支援。

大分川環境整備【計画段階評価】

5. 対応方針(原案)

(1)大分県の意見

- ・アクセス性、経済性が高く、環境・景観への影響を低減できる「A案. 弁天大橋～府内大橋 左岸」で整備を行うことが妥当であると考えます。
- ・事業実施にあたっては、コスト縮減に留意するとともに、あらゆる関係者との連携・合意形成を図りながら、計画的かつ効果的な整備となるようお願いします。

(2)対応方針(原案)

比較した2案のうち、かわとまちが融合した環境整備にあたっては、アクセス性、経済性、環境・景観への影響等のそれぞれの面から「A案. 弁天大橋～府内大橋 左岸」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆す要素がないため、「弁天大橋～府内大橋 左岸」の整備を行うことが妥当と考えられる。